

さわがせ

号 数 第 3 4 4 号

発行日 令和6年9月1日

発行所 金光教 靱 教会
〒550-0011

大阪市西区阿波座 2-2-10

TEL&FAX 06(6541) 6313

mail: utubo1905@gmail.com



ご本部祭場にて、前教主金光様ご密葬がしめやかに執り行われました(7月25日)

前金光教教主

金光平輝様ご帰幽

前教主金光平輝様は、7月21日、御齡89才8ヶ月をもってご帰幽されました。4代金光鑑太郎様のご帰幽後、平成3年3月に金光教教主にご就任され、以来6期30年にわたって本部広前に御神勤下さり、全教信奉者はもとより世界真の平和を日々願ひ、ご祈念、御取次下さいました。



7月25日に密葬が本部祭場にて執り行われ、副教会長夫妻が参拝させて頂きました。8月29日には本葬が同じく本部祭場にて執り行われ、教会長夫妻を始め、当教会より4名が参拝させて頂き、金光様へ御礼の真をささげ、現世のお別れを申し上げました。

熱中症になって

教会長 鍵山公生

今年の夏も大変暑く、厳しい日が続きました。いつもの暑さとは違って、格別な高温が続きました。その中をいかにして過ごせばいいかあれこれ教えていただき、その中を凌いで来られたことでしょう。

私は8月3日、4日の少年少女全国大会に参加するための準備をしたり、境内の枯れ葉の掃除をしたりしていました。7月31日の夕方この暑さに耐えている境内の木々たちがかわいそうでホースでしっかり水を与えようと散水しておりました。

そこでどうしたことか、私が前へ行こうとするのに進めず足元がもつれ、境内の石畳に後頭部をガツンと大きな音を立てて倒れてしまったのです。まるでひっくり返った亀が、手足をばたつかせている状態になったのです。自分で起きようとしても腕に力が入らずもがいていたところ、そこへ門前を通りかかった女性2人が気づき、教会にある呼び鈴を押して「人が倒れてますよ！」と大きな声で家族を呼び出してくださったのです。家に居た者たちが飛び出してきた、さあ救急車だ、医者だと騒ぎだし、私は意識ははっきりしていたので、救急車のサイレンを鳴らしてくるのが嫌で、また入院させられても困ると思い、救急車を呼ばず家の中に入りました。そして体温を計ると39度以上もあって、家族で体の周りを氷で冷やしてくれたので少々落ち着きました。後で考えると倒れた所が境内の中央であったため、道行く人が気づいて下さったことはありがたいことでした。もし奥まった所で倒れていたらそのまま熱中症で命に関わることになっていたかもしれません。それは本当に不幸中の幸いでした。

打撲した頭には大きなこぶができ頭痛が続き、もし内出血でもしていたら大変だと心配になり、翌日脳外科の病院でMRI検査を受けました。おかげで内出血はしておらず、しかし頭痛が続くので御神米をいただき、御神酒を頭に付けさせていただいて、心中祈念を続けるばかりでした。2日目には近所の開業医で血液検査と栄養剤などの点滴を受け、入院することなく自宅養生を続けました。そしてもう落ち着いた頃と思った9日目の朝、ベッドから立ち上がったとたん、頭の中で脳がクルクルッと回るような感じがして、すぐベッドに座り込んでしまい、今度は目の前の部屋の壁が走馬燈のように回り出すのでした。そのことがあってまだ起きるのは早いと考え、しばらく頭に振動を与えないようにして、回復するの



を待ったのです。

開業医に血液検査の結果を聞くと、「この熱はどこから来たのかよく解らない。熱中症としか言えませんが」と首を傾げるばかりでした。

今年の暑さは例年より厳しく、このようなことが起こってからは特に電気代のことなど言っておられず、空調に頼ることになりました。

この夏はフランスではオリンピックが盛大に繰り広げられ、より多くのメダルを取得して大喜びでした。甲子園球場では高校野球選手権大会が開催され、日頃から体を鍛えている人たちは素晴らしい成果をあげているニュースを聞き関心するばかりです。

私はまだまだ若いのだ。まだまだ健康で日々のご用に取り組めると思っていました。今まで長年休まずご本部での少年少女全国大会には参加させていただいていましたが、今年は若い人たちに交代していただき、他の人にはなかなか付いていけない年齢になったと自覚するのです。

金光様は「信心しておるから一生患わぬと思うなよ。日月の神でも、日食もあれば月食もある。まあ、そんな道理のものじゃ。信心しても、人の身は生身じゃ。患うということはあるものと決めて、またこのようなことでは死なないと決めておけばよい。」と仰せられ、人生にはいろいろ患うことがあっても、それがすぐに死ぬことにつながらない。患いは、日食や月食があるように、天地の道理として生じるもので、患ったからすぐ命に関わるというのではなく、今回出会った病気にくじけることなく、今ある命を精いっぱい生き、同じ失敗を繰り返さないよう大切に、神様に感謝するという心が天地の道理に基づく生き方であると仰せくださっているのです。

このように、私たちが怪我や患うことがあっても、これから後に同じ問題に出会うことがないように気をつけていけば、心配はないと神様が導いてくださっているのです。

今年の11月17日は韮布教120年・生神金光大神大祭をお仕えさせていただく予定になっておりますが、このような時に倒れていてどうするのだと神様から叱咤激励して頂いたようで、ありがたく思わせていただいています。

信奉者の皆様もどうぞ健康に気をつけられ、この記念祭を盛大に、家族一同そろってありがたく、喜びのみ祭りになりますよう、一層のおかげをいただいてまいりましょう。



第77回 金光教少年少女全国大会参加

8月3・4日と御本部広前にて開催された少年少女全国大会に、韃教会より13名が3台の自家用車と新幹線に分乗して参加しました。

3日の午後から開会式、金光様へのお届けがあり、私たちは教祖様始め歴代金光様、そして絵師迫の奥城を参拝させていただきました。午後4時30分より金光様のお退けをお見送りし、午後6時より霊地夜祭りに参加しました。

霊地夜祭りは参加者に配られた食券で、境内に出店された模擬店で焼きそば、いなり寿司、焼き鳥、冷やしうどん、フランクフルト、かき氷、ジュースなどの



↑夜祭りのゲームコーナー
輪投げを楽しみました

食品が並び、また夜店では魚釣り、射的、輪投げなどのゲームコーナーもあって、それぞれおなか一杯になりました。同時にゆうやけパレード、ステージパフォーマンス、「激突！日本の祭り」などが行われ、賑やかな行事を楽しませていただきました。私たちはその後水島のホテルに移動し、お風呂で汗を流し休ませていただきました。

翌日4日には境内に戻り、かがやけ大行進に参加。中近畿教区では今年のテーマ「咲くやこの花」と題して、作成した蝶々や、ひまわりの花を持って元気に行進しました。今年、行進時に鍵山唯志さんが作曲した「永遠

の祈り」を行進曲に編曲し、その曲を流して行進を行いました。

午後1時から祭場においてわかば祭、式典が行われ、その後、前教主金光様ご帰幽にあたり、献花が行われました。その後それぞれ教会に無事帰らせていただきました。





←かがやけ大行進では、金光町内を元気に行進しました

かがやけ大行進に参加した、中近畿教区の方々と一緒に記念撮影↓



教会内部改装取り組みについて

韃教会は新築されて40年が過ぎ、広前各所の汚れや傷んでまいりましたので、韃布教120年祭を迎えるに当たり広前内部の改装に取りかかっています。

既に昨年11月に玄関ロビーの壁クロス張り替えと天井の塗装。また応接間の天井クロス張り替えが行われました。今後は広前のジュータン、脇殿の壁クロス張り替え、広前椅子張り替えなどを予定をしています。

皆様のご協力とお祈り添えを賜り、無事美しい広前での記念祭をお仕えさせていただきます。

玄関ロビー、応接室（昨年工事完了）

広前ジュータン

脇殿の壁クロス

広前椅子張り替え

御霊の世界

本年6月に、関西福祉大学で「生と死の教育」という講義を学生さんとともに受けさせていただきました。この講義は、同大学社会福祉学部の教授であり、哲学者の中村剛先生が講義をされ、90分の講義のうち、最後の20分は同大学の非常勤講師である金光教教師が、本教の信心に基づく解説をされます。この時の講義のテーマは「死」でした。

講義では、死にも人称性があり、一人称の死は自分自身の死、二人称の死は家族など大切な人の死、三人称の死は、人類が誕生し今日に至るまでに亡くなった方々の死を指し、一人称の死は、誰も経験することができず、二人称の死は悲しみを伴うものとのことでした。

講義の最後に中村先生は、「死後の世界については、大別すれば次の二つが考えられる。一つは死後という言葉の通り、死んだ後の世界が存在すると考える立場。もう一つは、そのようなものが人間には思考できないという立場。私たちは、時間という概念のある世界での思考の延長で『死後』ということを考えてしまう。しかし死は、時間という概念がある世界の消滅だと考えるならば、死後の世界という概念自体が成り立たなくなる。哲学の立場から考えるならば、『死後は存在する、あるいは、しない』と答えるのではなく、『思考できない』と答えるべきでしょう」と述べられました。



教祖様のみ教えに、「みな、神の分け御霊を授けてもらい、肉体を与えてもらって、この世へ生まれて来ているのである」、そして、「死ぬというのは、みな神のもとへ帰るのである。魂は生き通しであるが、体は死ぬ。体は地から生じて、もとの地に帰るが、魂は天から授けられて、また天へ帰るのである。死ぬというのは、魂と体とが分かれることである」とあるように、私たち金光教の信心をさせていただいている者は、哲学では「思考できない」とされる御霊の世界を信じて生きています。この「信じる」というところに、御霊様への御礼の心が生まれてきます。秋分の日を迎える9月、本部広前をはじめ各地の教会で秋季霊祭が仕えられます。御霊となった後も、子孫をはじめ縁ある人々の助かりと立ち行きを神様に願い、日夜守り導いてくださるおはたらきに御礼を申しつつ、御霊様として、ここからいっそうにお働きくださるよう、祈りを込めさせていただきたいと存じます。

金光教総務部長 和田一真（金光教報令和6年9月号巻頭言より転載）



月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして
ご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。
(9月8日・10月20日ともに午前10時30分より)

さわかぜは、韃教会ホームページからもお読みいただけます。



金光教うつほ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>



令和6年9月

1日(日) 月例祭執行 午前10時30分

8日(日) 月例祭並びに月例霊祭執行
午前10時30分

祭典後教話、片江教会 山田一郎師
講題：「御霊様の願い」

20日(金) 信徒共励会 午前10時

23日(月) 秋季霊祭執行 午前10時30分

29日(日) 秋の合同墓前祭 (瓜破霊園にて) 午前10時30分

10月



1日(火) 月例祭執行 午前10時30分

6日(日) 御本部 生神金光大神大祭参拝

13日(日) 月例祭執行 午前10時30分

14日(月・祝) うりわり墓参 午前7時

18日(金) 信徒共励会 午前10時

20日(日) 月例霊祭執行 午前10時30分

11月

1日(金) 月例祭執行 午前10時30分

2日(土) 御本部月参拝 午前6時出発

3日(日) 大祭準備大掃除 午前10時

15日(金) 信徒共励会 午前10時

靱布教 120年 生神金光大神大祭奉行

11月17日(日) 午前10時30分より

本年は和田安兵衛先生が靱の地に布教されて120年の記念の年をお迎えいたしました。そして11月17日(日)には、生神金光大神大祭に併せて靱布教120年記念祭が仕えられます。

ご都合お繰り合わせを頂かれ、ご家族そろって、神様に御礼の真心をお供えさせていただきます。